

TOKYO DIGICONX 2026 / 2026.01.08 Session Log

ステーブルコイン革命前夜： AIが主役となる「決済の再設計」

2026年現在地：50兆円市場への成長と、
ビジネスOSの転換点

Based on the dialogue: Noritaka Okabe (JPYC Inc.) × Takahito Kagami (CoinPost)



エグゼクティブ・サマリー：デジタル通貨は「実験」から「社会インフラ」へ

50兆円



2026年
世界市場規模

2019年の600億円から
爆発的成長

3日



通貨の
回転速度

発行残高の全量が
3日で1回転する流動性

95%



非人間
による取引

AI・ボットが実行する
自動取引の割合

「便利なお金」から「高速回転するインフラ」へ。市場は年平均68%で成長し、2030年には500~600兆円規模へ到達する予測。
金融機関は敵ではなく、最大のユーザーへ。JPモルガンやPayPalを含む主要プレイヤーが発行・利用を開始。

デジタル通貨の3勢力：なぜステーブルコインが「OS戦争」を制するのか

	CBDC	トークン化預金 (Tokenized Deposits)	Winner OS Standard ステーブルコイン (Stablecoins)
信用 (Trust)	最強 (中央銀行)	高い (銀行信用)	発行体に依存 (民間)
柔軟性 (Flexibility)	低い (統制重視)	中 (銀行システム内)	高い (プログラマブル)
相互運用性 (Interoperability)	閉鎖的	限定的 (Closed Loop)	パーミッションレス (Open)

勝因：イノベーションの速度。許可不要でコードに組み込める「自由度」が、開発者の支持を集めている。

資金効率の革命：3日で1回転する「働き者の通貨」

回転期間：約3日

1日あたり取引高：
約17兆円

発行残高
(Stock)

取引高
(Flow)

市場規模：
約50兆円

これまでの金融常識では考えられない回転率。発行量（ストック）に対し、取引量（フロー）が極めて大きい。

単なる「価値の保存」ではなく、常に移動し、決済され、交換され続ける「効率的なお金」として機能している。

最大の衝撃：人間が使うお金から、AIが使うお金へ

Human via UI



- 手動操作
- 速度限界
- 営業時間あり

95%

取引の95%は非人間
(AI/Bot) が実行

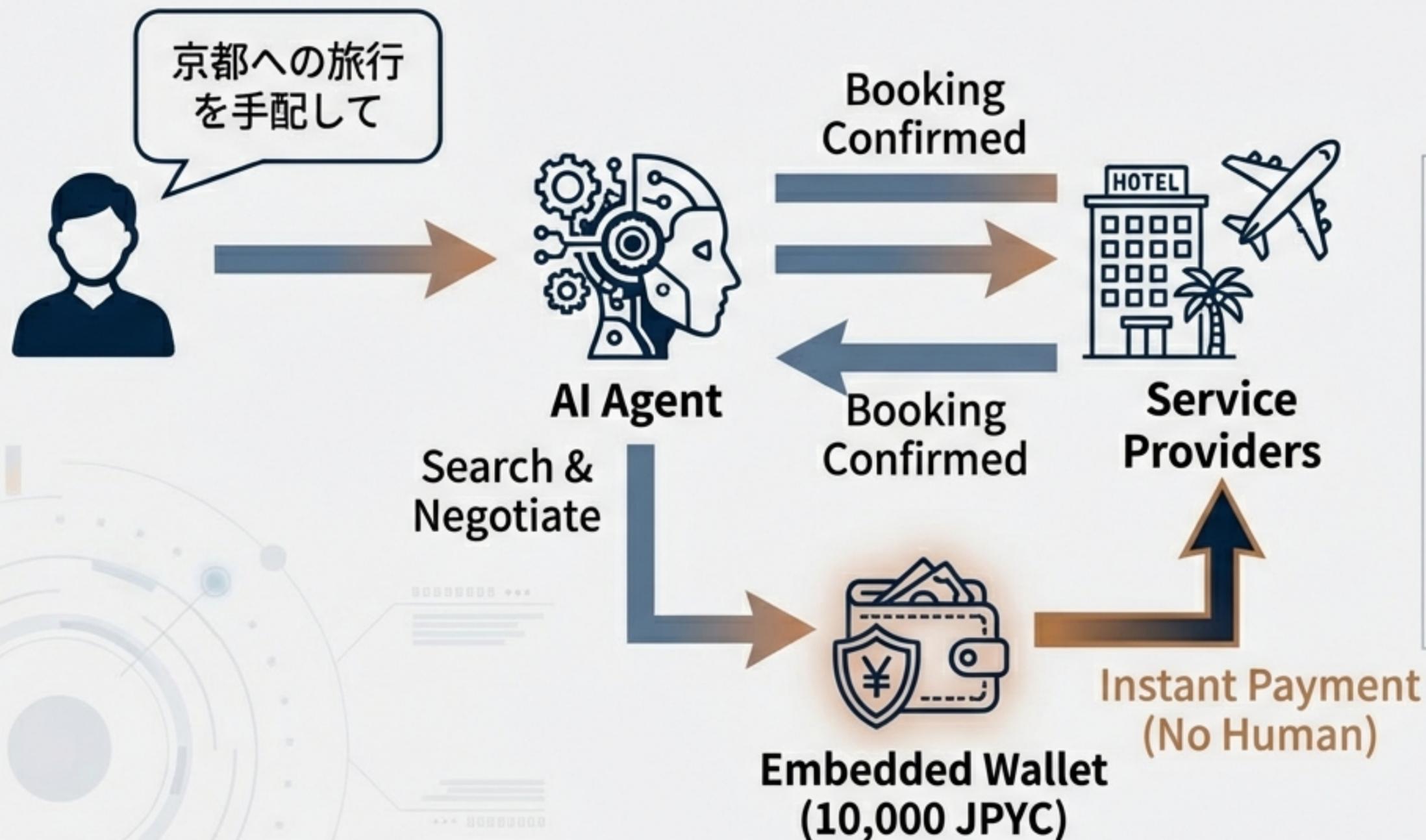
AI via API



- 自動実行
- 瞬時決済
- 24時間365日

「ステーブルコインは、プログラムで動かせるお金。
AIが経済主体として自律的に財布を持つ時代の必須インフラである。」

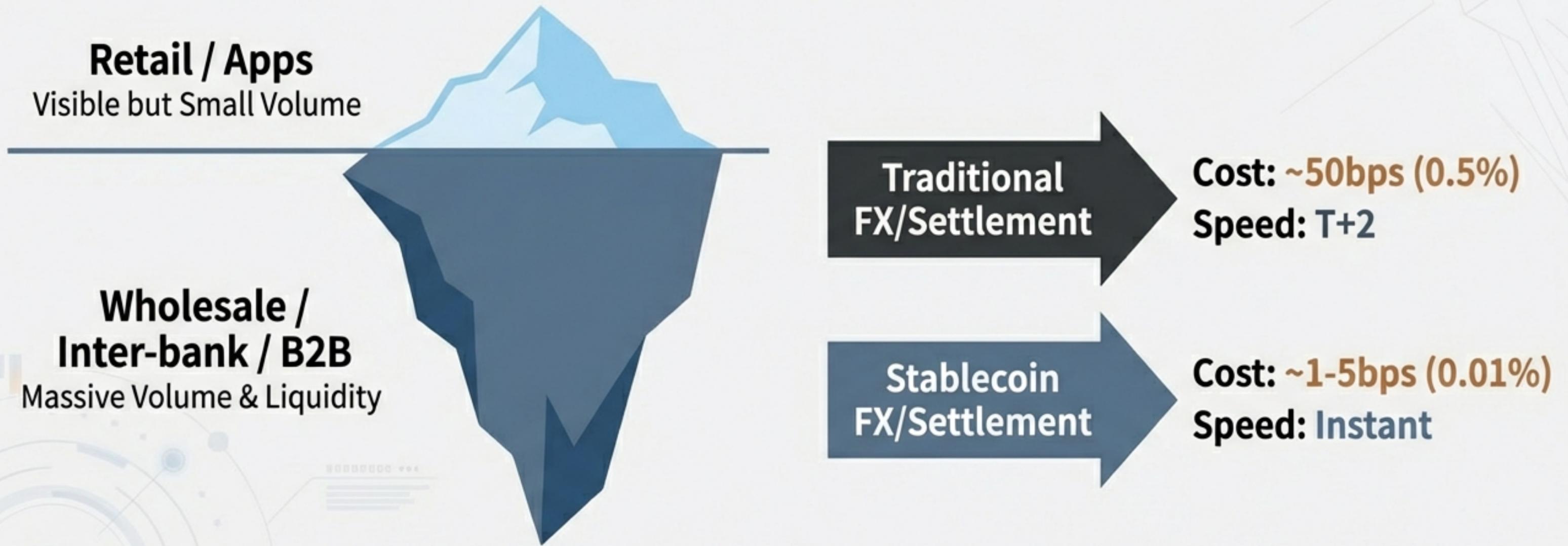
2026年の風景：AIエージェントによる「自律経済圏」



Actionable AI (実行するAI)

- これまでのAI：調べ物はし
- これまでのAI：調べ物はしてくれるが、決済は人間頼み
- これからのAI：提案→手配→支払いまで一気通貫

ホールセール革命：見えない場所で進む「コスト破壊」



- 世界的な金融機関が「敵」から「発行体・ユーザー」へ転換。
- 為替コストの劇的な低下は、最終的に個人の生活コストや輸入品価格にも還元される。

パーミッションレス：許可なきイノベーションがビジネスを加速する

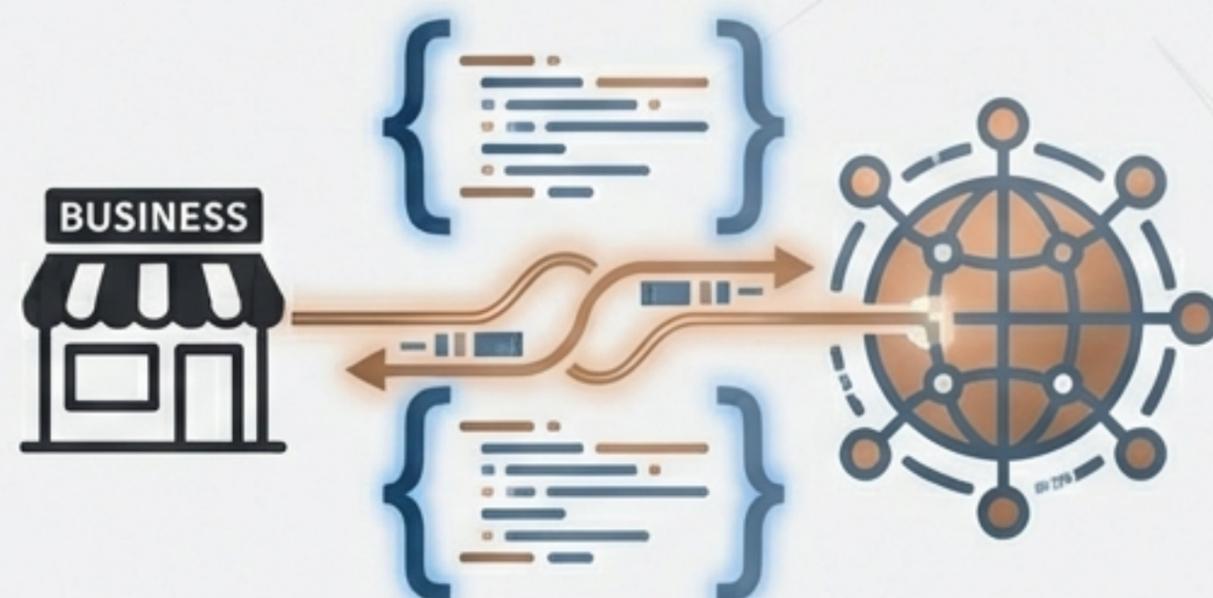
Old World



信用調査・不透明な審査

Old World: 小規模事業者は「怪しい」とみなされ、海外送金のハードルが高い。

New World

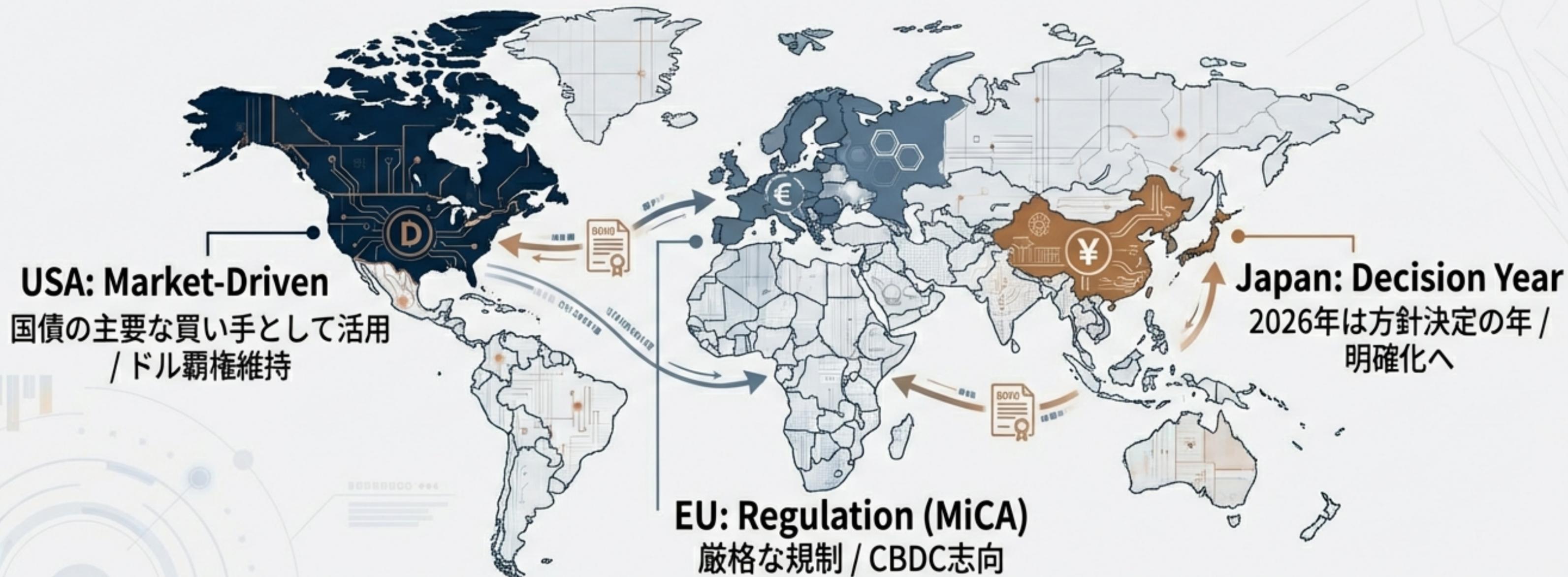


Protocol Based (Code is Law)

New World: コンプライアンスはコード(KYC)に組み込まれ、転送自体は自由なプロトコル上で行われる。

Programmable Money - 条件付き自動送金が新たなビジネスモデルを創出

国家戦略としての通貨競争：規制の地図と国債の買い手



Crucial Insight - ステ이블コイン発行体は、今や国債の巨大な買い手である。金利上昇局面において、通貨の安定と国債消化を支える構造的役割を持つ。

日本の現在地：成長を阻む「2つのボトルネック」と「最強の武器」

Problem



100万円の壁

B2B利用には桁が足りない
(要10億単位)

Problem



縦割り行政

金融庁 vs 他省庁の
定義不一致

Solution

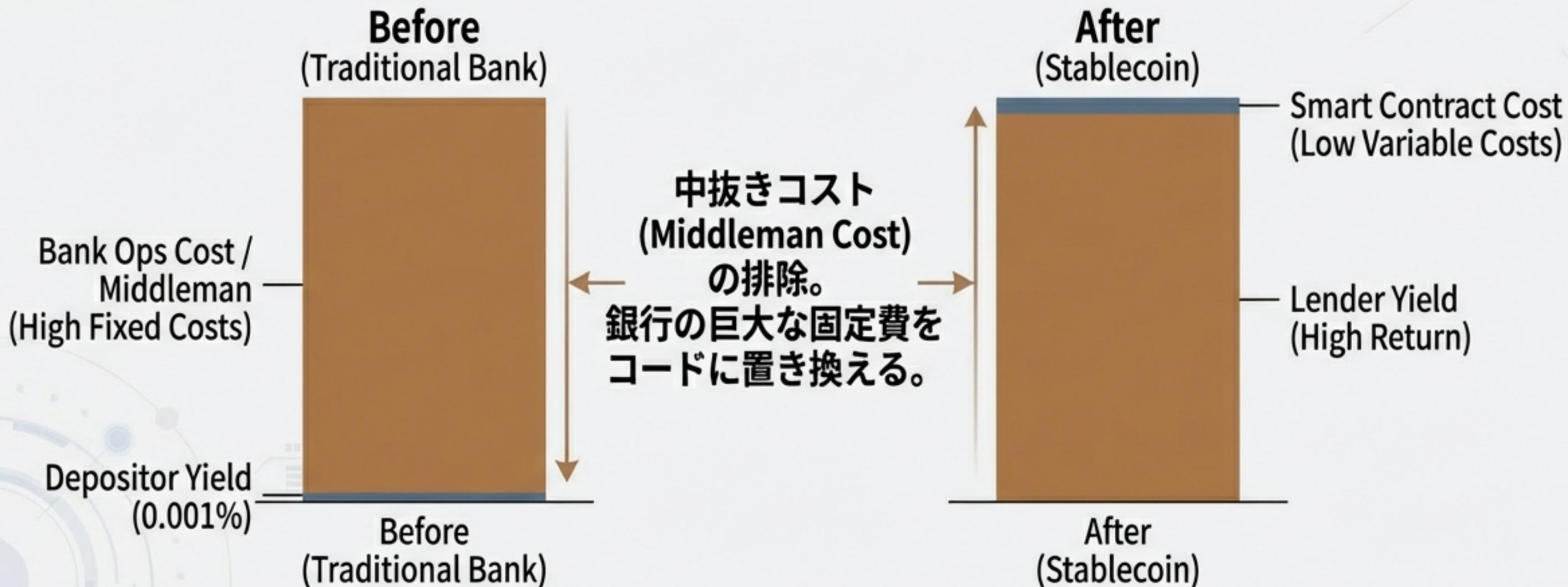
最強の武器：マイナンバーカード (Hardened KYC)



既存金融は「紙ベースのKYC負債」が重荷。
日本はデジタル完結の「硬いID」でリープ
フロッグが可能。

ビジネスケース①：レンディングと利回りの民主化

Before & After: Interest Breakdown



Outcome: 貸し手はより高い利回りを、借り手はより低い金利を享受する。

ビジネスケース②：サプライチェーンと中小企業の解放



**農家のD2C /
手数料回避**

農家から直接ユーザーへ、
中間手数料を大幅削減



即時ファクタリング

Amazon売掛金の即時流動化
で、資金繰りを改善



下請け保護

スマートコントラクトによる
自動収益分配で公平な取引

資金繰りの高速化が、中小企業の生存率と競争力を高める。

ガバナンスと社会：透明性が生む「新しい信頼」

Traceable Money



Trust

「税金が正しく使われているかわからない」という不信感の解消。

Efficiency

徴収コスト・給付コストの大幅削減。

Vision

Technology that restores the social contract.



結論：それは「使うか、使わないか」の議論ではない

AIと同様、ステーブルコインは「いつ本格的に実装するか」を議論するフェーズ。
使わない選択肢は、競争力の喪失を意味する。

インフラの裏側で変化は起きている。今すぐ実験を始めよ。